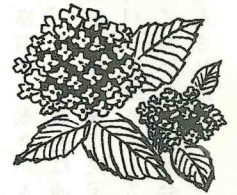


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 33 号)  
昭和55年7月1日

アド・リミナを 終えて

仙台司教 佐藤 千敬

△聖なる普通の教会▽・△一・聖・公・使徒継承の教会▽は、同時に、全世界にわたる多数の△部分教会、地域教会、教区▽でもあります。それぞれが一人の司教を中心とする神の民であり、生きた教会なのですが、同時に、唯一の△キリストの体としての教会▽を形成しているのです。

この教会の唯一性と多様性、地域性と普遍性、使徒継承の統合性と全世界に散らばっている使徒の後継者としての司教たちの一致ということが、目に見える形で現われるのがヴィジタ・アド・リミナ・アポストローム、つまり入使徒たち(特に聖ペトロ、聖パウロ)の墓への表敬訪問▽なのです。日本の司教たちも、去る五月十九日朝、聖ペトロの墓前で共同ミサ聖祭を行い、信仰宣言を新たにしました。それに続いて、十九〜二十日にわたって、使徒たちの頭・聖ペトロの後継者である教皇(ローマ司教)と日本の各司教との個別

の、また共同の話し合いがありました。個別の対話は僅か十分間程度の短いものでしたが、机の上に日本の地図を広げて、「仙台の教会はどこにあるのですか、状況はどうですか」と尋ねられる教皇様の姿は印象深いものでした。特に、終わりごろ、去る四月五日の復活徹夜祭において、仙台の聖ウルスラ学院高校生・大谷かおりさんが教皇様から洗礼を授けていただいたことについてお礼を申しあげたところ、「教会の姿を示す大事なことと自分は思っており、自分もうれしく思っています。よろしく伝えてください」との言葉があり、使徒座と仙台の教会が、遠くて近いものだと感じました。

日本の司教たちは、五月二十二日に「福音宣教聖省」を訪問し、日本の教会のために毎年多大の援助をしてくださっていることに感謝の意を表し、各教区の事情などについて話し合いました。同じ日の夕方、ローマに総本

部を置き、日本での宣教事業に協力している男子修道会・宣教会の総長方を招待したお茶の会が開かれ、日本の司教たちとの歓談の一刻を持って今回のアド・リミナの公式行事を終了いたしました。

最後に、仙台教区の神の民への教皇様の祝福をお伝えし、併せて、今回のローマ訪問の旅の無事をお祈りくださったことに、私からの感謝の意を表します。

## 司教様の 日程

- 5月13日 ローマ教皇庁公式訪問のため離仙
- 6月7日 ローマ公式訪問より帰国
- 10日 中央協議会建物検討委員会
- 15日 仙台司教区修道女連盟研修会
- 16日 教区司祭団役員会
- 日本カトリック児童施設協会全国大会
- 17日 定例司教会議
- 26日 宗教法人責任役員会
- 27日 スベルマン病院理事會
- 29日 司教座聖堂献堂記念日
- 元寺小路教会 ミサ・堅信式
- 30日 教区司祭団月例会
- 7月6日 宮城県信徒大会
- 10日 社会福祉法人理事會
- 13日 司祭評議会役員会
- 14日 教区司祭団役員会
- 24日 仙台YBUセンター落成祝別

豊作を祈る寿庵祭

キリシタン展示会も



後藤寿庵の居館跡で知られている岩手県水沢市福原で、豊作を祈る「春の寿庵祭」が、さつき晴れに恵まれた5月25日(日)、岩手県はじめ、宮城県、青森県などからのカトリック信徒、地元農民、来賓約300名を集めて盛大に行われた。

午前9時半、大十字架を先頭に、司祭・信徒たちが行列を整え、ラウドスピーカーから流れる聖歌に和して、歌いながら公民館から会場の寿庵廟まで、約一キロ半の福原小路を行進して会場に入った。

式は、水沢教会主任ローネル神父が、この地の大恩人・後藤寿庵の取りつぎによって、神がこの地に豊作と繁栄と平和が与えられるように祈って田畑を祝福した。次いで来賓たちの祝辞のあと、ミサは仙台教区総代理土井文雄神父を中心に、岩手・宮城県の司祭の共同でささげられた。

説教で、土井文雄神父が、イエスとサマリヤの女の対話にてくる「水」をとりあげ、水の意味を説明しながら、寿庵が、生命をかけてつくった「寿庵堰の水は、農民の生活を豊かにした」良い水であったことと、さらに寿庵の立派な信仰にまで言及して、参列者一同に感銘をあたえた。ミサ後、主催者側を代表して、三浦功・水沢教会信徒会長の謝辞があった。式が終わった。

なお、シュミドリン神父が、会場隣りの「武家屋敷」に、遺物や絵や写真などで後藤寿庵と伊達藩を中心とした「キリシタン展示会」を開き、この祭りを一層有意義なものとした。

仙台教区修女連研修会開く

仙台教区修道女連盟の研修会が、去る6月15日、聖ドミニコ学院を会場に88名の参加を得て開かれた。

今年は、東京桜町病院神経科長鎮目光雄氏を迎え、「修道生活における自己との出会いと別れ」というテーマで研修を行った。

「修道者の召命は、ある時、新しい価値観を持つ自己に気づき、古い自己に別れを告げ、新しい価値観に生きようとする決断である。神に愛された者として人々に奉仕する修道者が、真にしあわせな人として生きるよう、日々新たに、自己との出会いを持つように」との臨床経験を交えながらの講話は、人間を温かく見つめ、心の奥深くまで響いていくような静かな感動を、参加者に与えた。

講話の後、ローマから帰国されたばかりの佐藤司教により感謝の祭儀が献げられ、説教の中で旅行中の印象を話され、又、日本の宣教のためには、修道者の働きが大きい事を強調された。なお、この研修会は通常年一回であるが、今年は管区長会議の決定を受けて、11月2日(日)、奥村一郎師によるキリスト教の日本における受肉についての講演会が予定されていることが発表された。

仙台YBU文化センター

7月24日(木)

落成式挙行予定



仙台市上杉二丁目140番2に一月末起工した仙台YBUの新たな文化センターは、安藤建設(株)仙台支店の手によって工事は順調に進められ7月24日、落成式及び祝賀会が行われる。

YBUが現在の地に新築されるに当たっては、館長ジョリコル師の並々ならぬ御苦労と、神の摂理によるところが多い。

ジョリコル師は、YBU創立十周年に当たり新センター建設を企画したものの、地価は高く行き悩んでいた。師は度々天使園の子供達を勝山スケートリンクに連れて行っており、経営者の伊沢平一氏と顔見知りの間柄から、多くの土地の所有者である同氏に借地を申し入れてみた。ところが父君の伊沢平勝氏からそのような仕事のためならと、現在の土地を寄贈しようとの申し出があり、はからずも今回のよろこびとなったものである。

◎より良き世界運動(MBW)練成会案内

日時 8月5日(火) 6時~10日(日) 2時

場所 遠刈田温泉草地農業研修所

(元寺小路教会集合 5日2時出発)

参加費 二万二千円(内金五千元を添えて)

申込先 左記のいずれかにお送り下さい。

031 983 仙台市大和町1-15-13 岩井誠

031 八戸市大字柏崎4-14-37 聖ウルスラ修道院 Srノエラ



高齢司祭厚生福祉基金

\*今年度から支給開始\*



仙台司教区高齢司祭厚生福祉基金(委員長 深沢豊治師)では、今年度から4月にさかのぼって、有資格者(現在2名)に支給を開始することを決定した。この基金は、高齢司祭の病氣・医療費、日常生活の扶助等を目的として、昭和51年発足し、毎年募金をつづけてきたものである。主な財源は、小教区信者、修道院からの寄付金、邦人司祭の拠出金、ローマ聖座からの補助金であるが、今年度の基金への繰り入れ額は五百万余円であった。昭和54年度の決算報告によると、年度末現在高は漸く三千万円を越えて、年間の利子収入は二五〇万を越える見込みなので、現在、引退して、この基金の受給資格を有する2名の引退司祭にこの基金からの支給を開始することを決めたものである。

交流ソフトボール大会

△福島市三教会▽

去る6月1日(日)、松木町、野田町、桑折町の三教会合同のソフトボール交流試合が、桜の聖母高校のグラウンドで行われた。青年姉妹会と信友会がソフトボール、いつも応援団になっていた婦人会は、今回はキックボールと全員が球技できるよう計画された。午後一時、初夏の太陽の下、青年姉妹会の

第一試合がピシエ神父の始球式で始まり、二時間に渡る熱戦が展開された。珍プレー、フライングプレーに、歓声とどよめきがわいて、和やかな交流が続いた。

三教会の交流は、スポーツの外、ボランティア活動、市民合同クリスマス、県下信者のつどい、墓地清掃、共同募金等年間を通して行われている。よく祈り、よく働き、そして共に楽しむ集いとして、スポーツは手軽で効果的であるから、年に一度、スポーツ大会を実行して、大いに楽しみ、交流を深めたいと思っている。(野田町教会 木戸清吉)

教会新築へ向かって

信徒の、一致協力!



八戸塩町カトリック教会では、聖堂の老朽化にともない、3年前から特別事業などを実施し、現在までに、二四〇万五九六三円の金額を預金するまでに至った。

教会は、毎月一回の廃品回収を行い48万、映画会で約90万、バザーで43万、寄付金78万、教会維持費からの拠出金530万、預金利息83万と集めたが、ただお金ばかりでなく、毎日一環のロザリオの祈りを実施してきた。五家族が、毎日一連ずつ捧げているのである。一か月で、次の家族へバトンタッチということ、今まで、八か月間続けられてきた。又、130世帯位ある信徒を14の地区別班に分けて、先月は、家庭集会を6か所で行った。内容はロザリオの祈りが中心であったが、こ

れから、学習とか、諸連絡など、大いに信徒の一致へ向かって発展するであろうと期待されている。(広報委員・藤村重実記)

青森県カトリック青年教育協議会 夏のトレーニング計画きまる



青森県では、青少年の信仰教育を、総合的に考える事を目的に、青森県カトリック青年教育協議会が6年前から発足。現在順調に、その歩みを進めている。

特に、中・高生が、それぞれの立場で自己の信仰を見なおす機会を持つことにより、大学生、社会人になった時、確信を持って自らリーダーとして小・中・高生を指導することができる、そのようなサイクルをねらっている。今年の夏は、次の日程で、それぞれ、トレーニングが行われるが、関係者はその成果を期待している。

- 中学生練成会 8月9〜12日
- 青森県嶽温泉にて
- ヤングクリスチャン
- トレーニングスクール(高校生)
- 青森県精神薄弱者総合福祉センター

- 8月4〜6日(夏泊りにて)
- 精薄者ボランティアの実務研修を県の指導者から受けながら、体験を通して自分の信仰を考える。
- カトリック大学生の集い(第一回) 7月20〜21日 浪打カトリック幼稚園 (広報委員・新松良雄報告)

1980  
教区目標

聖書に基づいた  
家庭における  
子供の  
信仰教育



今年の四旬節教書で、佐藤司教は、仙台教区の今年の目標をきめ、次のように述べておられます。

「今年の教区目標は、昨年のを継続し、特に「聖書」に学びながら「聖書に基づいた家庭における子供の信仰教育」ということにならしたいと思えます。皆様の一層の奮励・努力をお願いします。

家庭において聖書を読み合い、教えあうような家風を作り上げながら、日常生活そのものが、親子ともども、神のことに活かされ信仰者として成長してゆくものとなる時、その家庭は「恵みに満たされたキリスト者の家庭」となるでしょう……。」

教区だより6月号でもこの事について皆様の声を募集したところさつそく寄稿文をいただきました。本年度の特集として連載していきたいと思えますので、父親、母親、青少年、教師、司祭、修道者の皆さん、それぞれの立場での声をお待ちしております。

(毎月10日締切、原稿用紙2〜3枚以内)

「教区目標」を受けて

東仙台教会 和野邦義

毎年四旬節になると、司教様は我々に司教教書を送られます。今年は、「恵みに満たされたキリスト者の家庭」という題でありました。ここで注意すべきは、キリスト信者の家庭でなくキリスト者の家庭と言われている点です。私はキリスト信者となつてから随分長いのにキリスト者になつていないか、と考えると心苦しいものがあります。司教教書には、神様が我々信者をどんなに御自分にとって大切

なものとして御心を配られておられるかという事、又、神様がどんなに永遠の生命、神の救いを我々にお与えになることを望まれておられるかを、聖書の言葉をもって我々に訴えておられます。そして司教様は、我々カトリック信者の家庭において、親子と一緒に聖書を読み合つて、聖書を通して神様と親しく交わることを心から望んでおられます。

それは先に述べたように、恵みに満たされたキリスト者の家庭を教会の土台と考えておられるからと思えます。

我々信者は、神様の無限の愛からのお望みを思い、又、それが我々の存在の本質であることを悟り、司教様の心からの我等への御心配にも答えたいものと、考えさせられます。

イエズス様や司教様に、「私はあなた達のために一生懸命笛を吹いたのにあなた方は踊ってくれなかった、私はあなた達のために悲

しみ泣いたのにあなた方は一緒に泣いてくれなかった」と言われたいように努力し、真のキリスト者となるように神の恵みの下に努力したいと思えます。

今年の我々仙台教区の信徒の信仰生活の目標として特に聖書に学びながら、「聖書に基づいた家庭における子供の信仰教育」と司教様から頂きましたので、我等全信徒は、この目標に向かって奮励努力を致しましょう。

私の考えですが、毎日子供と聖書を読み合うのは理想ですが、先ず親が出来るだけ多く読むようにしたいものだと思います。

そして、毎晩の食事の時など、親子が顔を合わせる機会のあるとき、今日の日常の出来事の話し合いの中で、キリスト者として如何にすべきだったかを、イエズス様ならどうしただろうかと考え合つたり、又、聖書の中の出来事を手本にして、子供と一緒に神様との交わりを持つのがよいのではないかと思えます。又、土曜日等では、明日の日曜日のミサに読まれる聖書を子供と一緒に読んで、ミサへの参加を生き生きとするため、神様との生ける交わりをするのも大切ではないかと思えます。又、祝日の時は、その祝日に関する聖書の子供達と共に読み、祝日の意味を分かち合いたいと思えます。時には大きな息子達と、過ぎ越しの晩さんからイエズス様の御死去まで、主の苦しみを黙想しつづ読んでみたい、そんな親子でありたいものです。そのために、神様の大きな救いのお恵みを祈りましょう。



上  
紙  
テレフォン  
サービス



教会維持について (最終回)

(4) 「そうすればあなたの神、主は、あなたが手で行うすべての事に、あなたを祝福されるであろう。」

110のおきてを守るならば、神はその人のすべてを祝福されると約束されます。

それは、どういう意味でしょうか。おきてを守ったから神様が「ごほうび」を下さるというのでしょうか。それでは自分の利益のためにおきてを守るのであって、「御利益宗教」となってしまうでしょう。では、どのような意味で祝福されるのでしょうか。

私達の人生の基礎となるのは、家庭生活です。家庭を破壊する原因の一つに経済問題があります。家計をいかに上手にやりくりするかが重要です。例えば、10の収入なのに15の支出を続けるならば、家庭は目茶苦茶になってしまいうでしょう。つまり毎月の収入だけでは間に合わない生活(今で言うならば、ローンでの借金、クレジットでの買い物等)を続けることです。生活程度を上げるのは易しいが落とすのは難しいのです。10の収入に対し、10の支出ならいいように見えますが、いつも差し引きゼロというわけにはいかない

のが普通です。しかし10の収入に対し9の支出という生活習慣が身につけているならば、収入が少なくなったり目減りするようになって、程度を落とすことはたやすいのです。1010でも苦しいのに、1019ではもったきついなと思いかも知れませんが、それはあくまでも主観的なもので客観性に乏しいのです。

米国のある新聞の報告によると、年収六千ドルの家庭では、その50%近い家庭で、平均一三三三ドルほど年収より多く使っていた。逆に三三三三ドル又は、それ以下の階級の27%の人々は、毎年二六二二ドルの貯蓄を、五千ドル又はそれ以下の層の50%以上が平均して四七二二ドルの貯蓄をしていた。この報告は、収入の範囲内で生活できるかどうかは、収入の大きさに大きく影響されるものではないことを示しています。つまり、910で生活しようと決心するならばできない事はないということ。このようにお金を正當に扱う家庭は、幸福な人間生活を営むことができるのです。

これこそが神の祝福と言えるのです。神の恵み(おきて)と、それに応える人間の努力(おきてを守る)が一緒になって、そこに生まれるのが、神の祝福なのです。

私達が、あくまでも収入の110は神の取り分との考えを、はつきり認め実行する時、今の日本の、110の収入さえなく貧困の中で、細々と生きている人々に対して、キリスト者としての使命を、わずかながらでも果たしていると言えるのです。

「インド、フィリピン、その他飢餓の状態にあ

る人々を食いながら、私達は丸々と生きていくのだ」という言葉を理解できないならば、長々と説明した110のことも、キリスト者としての使命、神の祝福さえも理解できないと言っているでしょう。(高田徳明神父)

【教会学校紹介】(10)

ホープスクール誕生

△福島県・矢吹町巡回教会▽

白河カトリック教会・矢吹布教所に、ホープスクールが誕生して、この6月で半年が過ぎた。ホープスクールとは、神父様方と、イエズス孝女会のシスター、矢吹町の信徒達の発案により、子供達の信仰教育の一端を担うべく始められた小学生を対象にした教会学校である。内容は、英語、スペイン語、道徳(宗教)、音楽、図工等豊富である。

子供達のほとんどは、イエズス・キリストの名を初めて聞いた者ばかりであったが、現在は、主の祈りを覚え、父兄からもキリスト教について知りたいとの声がある。

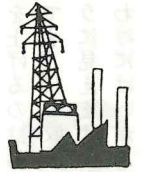
この事は、矢吹町の新聞にも掲載され、町の話題となった。

財源が乏しいため、教材不足を矢吹町の信徒に訴え、机やテーブルを寄付してもらおう等、遅々とした歩みではあるが、周囲の温かい目に見守られ、毎週金曜日のホープスクールは、子供達のもう一つの愛を育てる小さな花園として芳香を放ち始めている。

(矢吹町 佐久間淑子記)



ミニ情報



◎宮城県信徒大会

日時 7月6日(日)、午前10時～午後4時半  
場所 仙台・白百合学園  
プログラム

10時 開会式 (小・中・高生は別に研修)

10時半 パネル・ディスカッション

●「子供の実生活と教会」 近藤義忠氏

●「若者と宣教」 藤原洋一氏

●「職場におけるキリスト者としての姿勢」 菊地金男氏

●「ミサへの参加」 和野邦義氏

15時 共同司式ミサ  
16時30分 閉会

◎仙台・教会学校教師夏期研修会

都合により、種々の点が変更になりましたので、教区事務所だより6月号のお知らせを、次のように変更いたします。

日時 8月22日(夕)～23日(夕)

ただし宿泊せず通いとします

場所 東仙台・聖ヨゼフ会幼稚園

対象 教会学校の先生、子供の信仰教育に

関心のある方

講師 フランシスコ会士・渡辺義行師

◎宣教会本部変更のお知らせ

グアダルペ外国宣教会では、昭和55年6月1日付、本部を会津若松から須賀川に変更した。住所は左の通りである。

新本部 962 福島県須賀川市旭町94

(電024871312688)

日本部 965 会津若松市西栄町1157

(電024212711447)

◎広島市内教会の住所変更のお知らせ

広島市が政令指定都市になり行政区が設置されたので各教会の住所が次のように変更になります。典礼暦教会所在地等、御訂正下さい。(広島司教館から通知)

広島司教館 730 広島市中区幟町4-42

幟町 教会 730 // 4-29

観音町教会 733 // 西区観音町15-31

祇園 教会 731-01 // 安佐南区祇園町卑下安40

可部巡回 731-02 // 安佐北区可部町光善坊479-13

三条 教会 735 広島市西区桶木町4-16-30

翠町 教会 734 // 南区翠五丁目9-29

◎教区事務所夏期休業のお知らせ

教区事務所では左記の期間、夏期の休業をとらせて頂きますので、御了承下さい。

自八月二日～至八月十六日

編集後記

\*東北各地からニーズが入ります。これは各県の広報委員の方の御苦労の結果です。\*教区目標を今年こそ推進しようとするW氏の提案で毎月特集ページができそう。紙上討論ができればと楽しみです。\*読者の声が教区報を支えます。神に感謝!

11111111111111111111111111111111

仙台司教区事務所だより33号

昭和五十五年七月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

980仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371

著者の言葉

▲随想▼ 師の愛 佐々木正三郎

「私は教会のOです。お体はいかがですか」と、一人の紳士が枕辺に立っている。気品のひらめきを感じた。「カトリックをご勉強なさっているようですが、よろしかったですらお手伝いしたいと思いません」。当時不治の病い、結核でS病院に入院していたときのことである。O神父様は風雪をいとわず、週一度おいでになつた。一人でお話をおききするのはもったいないので数名おさそいしてきいた。翌年の復活祭には数名全員受洗のお恵みをお願いしたのである。それからの生きる意義についての人生観ががらっと変わった。

た。今から28年前のことである。

この3月11日に心臓発作で倒れた。医師の手当をして看護婦さんが緊急に教会に連絡してくれた。主任司祭T神父様から御聖体と祝福をいただき、更に13日に病者の塗油の秘跡を受けたのである。良い経過だった。21日廊下を歩いていると、「Oです。面会室はどこでしようか」と、全く思いもかけずO神父様にはばったり出会った。遠いところをおいでになられたのである。74歳とお年を召されている。昔の回想に花が咲いた。一語一語変わらぬ温かみに懐かしさがこみあげてくるのを禁じ得なかった。主に深く感謝している。